

'86世界最強タッグ決定リーグ戦 入場式から大乱闘… タッグの祭典熱気の開幕!!



名誉を賭けた戦いだ

テリー・ファンク&ドリー・ファンク・ジュニア



有終の美を飾る

長州力&谷津嘉章



カギは長州組との戦い

ジャンボ鶴田&天龍源一郎



俺達は飢えている

スタン・ハンセン&デッド・デビース



日本人には優勝させない

鶴見五郎&ラッシャー木村



勝敗よりも中身が重要

阿修羅・原&スーパー・ストロング・マシン



機動力で勝負

テリー・ゴディ&キラー・カーン



俺達がベストだ

トム・ジंक&リック・マーテル



虎の活躍に期待

タイガーマスク&ジャイアント馬場

今年で10回目を迎えた全日本プロレスのタッグの祭典『'86世界最強タッグ決定リーグ戦』は11月22日、東京・後楽園ホールにおいて華々しく幕を開けた。V2を狙うハンセン&デビースを始め、鶴龍に長州&谷津…と強豪チームが目白押し。果たして12月12日に笑うチームはどこになるのだろうか。



全日本プロレスリング 創立15周年記念

'86世界最強タッグ決定リーグ戦



'85 CHAMPION TEAM

テッド・デビアス & スタン・ハンセン



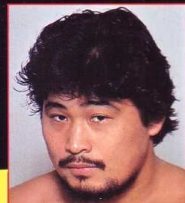
ジャンボ鶴田



天龍源一郎



長州力



谷津嘉章



ジャイアント馬場



タイガーマスク



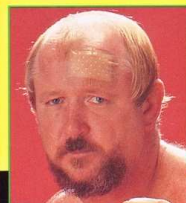
ラッシャー木村



スーパーストロングマシン



テリー・ゴディ



ドリー・ファンク・JR



テリー・ファンク



鶴見五郎



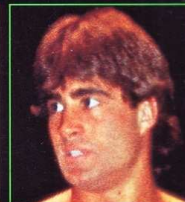
阿修羅・原



キラー・カーン



リック・マーテル



トム・ジンク

1. 小川良成 15分1本 笹崎伸司
2. 百田光雄 20分1本 仲野信市
3. ハル園田タッグ・マッチ 保永昇男
川田 20分1本 寺西 勇
4. 栗栖正伸 20分1本 ヒロ斎藤
5. タッグ・マッチ
マイティ井上 30分1本 テリー・ファンク
石川敬七 ドリー・ファンク
6. タッグ・マッチ
大熊元司 30分1本 キラー・カーン
ジャンボ鶴田 テリー・イモイ
7. 湯正信 30分1本 小林邦昭
8. タッグ・マッチ
サムソン冬木 30分1本 テッド・デビアス
天龍源一郎 スタン・ハンセン
9. タッグ・マッチ
タイガーマスク 30分1本 トム・ジंक
ジャイアント馬場 リック・マーテル
10. タッグ・マッチ
アニマル浜口 30分1本 鶴見五郎
谷津嘉章 阿修羅 原
長州力 R・木村

★'86公式リーグ戦参加チーム★



創立15周年記念'86世界最強タッグ決定リーグ戦

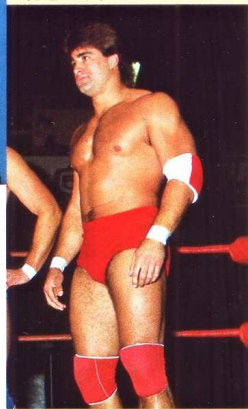
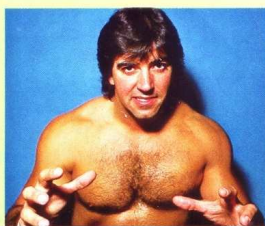
=11月=		28日金6:30	札幌中島体育センター	5日金6:30	熊本市体育館
22日土6:00	後楽園ホール	29日土6:30	三沢市総合体育館	6日土6:00	高松市民文化センター
23日日6:30	後楽園ホール	=12月=		7日日6:00	松山・愛媛県民館
24日月6:00	松本市総合体育館	1日月6:30	春日井市総合体育館	8日月6:30	広島県立体育館
25日火6:30	三条厚生福祉会館	2日火6:30	福井市体育館	9日火6:30	浜松市体育館
26日水6:30	秋田県立体育館	3日水6:30	兵庫県立文化体育館	11日木6:30	茨城県武道館
27日木6:30	函館市民体育館	4日木6:30	福岡国際センター	12日金6:30	日本武道館★優勝戦★

'86世界最強タッグ 決定リーグ戦 カラー・カタログ

▶阿修羅・原の完全フリー化によつて人だ
けになつてしまつた臨察血闘軍。まさに軍
団の存亡を懸けて木村と鶴見が参加する。
勝敗を度外視しての大暴れをやりそうだ。



元AWA世界王者のリック・マーテル
が初参加。ロケットマンと呼ばれる新鋭
のトム・ジंकがパートナーになった。



全日本プロレス
'86世界最強タッグ決定リーグ戦

＜11月＞ ＜太字はTV中継あり＞

22日(土)	後楽園ホール	6:00
23日(日)	後楽園ホール	6:30
24日(月)	松本市総合体育館	6:30
25日(火)	三条厚生福祉会館	6:30
26日(水)	秋田県立体育館	6:30
27日(木)	函館市民体育館	6:30
28日(金)	札幌中島体育センター	6:30
29日(土)	三沢市総合体育館	6:30

＜12月＞

1日(月)	春日井市総合体育館	6:30
2日(火)	福井市体育館(予定)	6:30
3日(水)	兵庫県立文化体育館	6:30
4日(木)	福岡国際センター	6:30
5日(金)	熊本市体育館	6:30
6日(土)	高松市民文化センター	6:30
7日(日)	松山・愛媛県民館	6:30
8日(月)	広島県立体育館	6:30
9日(火)	浜松市体育館	6:30
11日(木)	水戸市武道館	6:30
12日(金)	日本武道館	6:30

冠を手に入れるのは……。



▲10月30日の青森大会でアジア・タッグ王座を奪取した
S・S・マシン&原。調子に乗せたら恐い存在だ。



▲全日最強コンビの名譽に賭けても今年こそは優勝したい鶴龍コンビ。調子は上向いている。

み。フアンクスは『ジャイアン
ト・シリーズ』で往年の牙えが
見られず1ランク落ちそうだが
絶好調なのは長州&谷津と鶴龍
コンビの2チーム。

インター・タッグ防衛記録を
7とした長州&谷津組は、
「谷津が成長しているから何の
心配もない。鶴龍があれだけ技
を出しても、こっちはフオール
されないんだ。絶対、優勝だよ」
と早くも自信満々のV宣言。
対する鶴龍コンビも10・27の長
州&谷津組との試合を見た限り
では、こちらも上々の仕上がり。
ユニクなのは馬場&タイガ
ーマスク。アンバランスのよう
な気もするが、今年4月ルイジ
アナ州ニューオーリンズのスー
パードームで行なわれた『世界
タッグ五輪』で準決勝に進出す
るという実績を残しているのだ。
ダークホースはアジア・タッ
グ王者になったマシン&原。
カーン&ゴディと木村&鶴見は
勝負を度外視した大暴れをやっ
てのけそう。実力が未知数なの
はマーテル&ジंकのみである。



▲昨年度の優勝チームは現PWf認定世界タッグ王者S・ハンセン&T・デビアス組だ。ハンセンのパワーとデビアスのテクニックが巧く合体。



何かと話題が多かった今年の全日本プロレス：空前の輪島フイーバーの後に控えている今年の締めくくりは、『86世界最強タッグ決定リーグ戦』だ。

参加チームは9チーム。昨年度優勝のPWf認定世界タッグ王者ハンセン&デビアスを筆頭に全日最強コンビの鶴田&天龍、インター・タッグ王者の長州&谷津、ザ・ファンクス、G馬場&タイガーマスク、アジア・タッグ王者マシーン&原、K・カイン&T・ゴディ、国際血盟軍の木村&鶴見、R・マーテル&T・ジンクといった面々。

各チームの戦力を見ると、今年もかなりの激戦は必至である。ハンセン&デビアスのパワーとテクニックの合体の妙は実証済



▲ファンクス、鶴田コンビ相手にインター・タッグを死守して絶好調の長州と谷津。今年も優勝だ」と宣言。



▲黄色なのはカーンとゴディの日米混合チーム。パワーあふれるラフ殺法で大会を攪乱しそう。



▲ジャイアント馬場は初出場のタイガーマスクと組んでの出陣。『世界タッグ五輪』ベスト4の実績を持つ。

厳選された8チームが大激突!!
日本人タッグ抗争もさらに激化

ALL JAPAN PRO WRESTLING 全日本プロレス 創立15周年記念

'86世界最強タッグ決定リーグ戦

11月22日 後楽園ホール

試合開始 午後6:00

開幕戦

85 CHAMPION TEAM

ALL JAPAN PRO WRESTLING 全日本プロレス 創立15周年記念

'86世界最強タッグ決定リーグ戦

12月12日 日本武道館

試合開始 午後6:30

優勝戦

輪島大士 東京初登場!!

スタン・ハンセン テッド・デビース

ジャンボ鶴田 天龍源一郎

長州 力谷 津島 章

ジャイアント馬場 タイガーマスク

ドリー・ファンク・Jr テリー・ファンク

リック・マーテル トム・ジック

テリー・ゴディ キラー・カーン

S・S・マシーン 阿修羅・原

ラッシュー木村 鶴見 五郎

1986 AJPW REAL WORLD TAG LEAGUE RESULTS

November 22, 1986 Tokyo, Korakuen Hall (full house, 2,800) TV
Terry Funk and Dory Funk Jnr def. Tom Zenk and Rick Martel. Zenk tried for a pin with a sunset flip but Terry Funk reversed it for the 3 count at 13:31.

November 23, 1986 Tokyo, Korakuen Hall (full house, 2800)
Stan Hansen and Ted DiBiase vs Tom Zenk and Rick Martel to a no-contest at 9:51.

November 24, 1986 Matsumoto (2,350)
Tom Zenk and Rick Martel def. Shinichi Nakano and Kuniaki Kobayashi with a leap over top rope and splash by Martel on Nakano at 7:37.

November 25, 1986 Sanjoh (2,100)
Tom Zenk and Rick Martel def. Masanobu Fuchi and Haru Sonoda with a leap over top rope and splash by Martel on Sonoda at 11.03.

November 26, 1986 Akita (2,400)
Jumbo Tsuruta and Genichiro Tenryu def. Tom Zenk and Rick Martel when Tenryu pinned Zenk with an inside cradle at 12:55.

November 27, 1986 Hakodate (full house, 4,500)
Tom Zenk and Rick Martel def. Rusher Kimura and Goro Tsurumi with a leap over top rope and splash by Martel on Tsurumi at 10.34.

November 28, 1986 Nakajima, Sapporo (full house, 4900)
Tom Zenk and Rick Martel def. Masanobu Fuchi and Takashi Ishikawa with a leap over top rope and splash by Martel on Fuchi at 10:55.

November 29, 1986 Misawa (full house, 2,900)
Stan Hansen and Ted DiBiase def. Tom Zenk and Rick Martel with a powerslam by DiBiase on Zenk at 10:29.

December 1, 1986 Kasugai (2,450)
Tom Zenk and Rick Martel def. Tiger Mask II (Mitsuharu Misawa) and Mighty Inoue with a leap over top rope and splash by Martel on Inoue at 11.25.

'86世界最強タッグ 決定リーグ戦

●11月22日 東京・後樂園ホール

▶ 86世界最強タッグ決定
リーグ戦公式戦30分 1本勝負

T・ファンク } 1-0 { T・ジंक
D・F・ジュニア } R・マーテル
テリー (エビ固め、13分31秒) ジंक

▶(写真上)やはりタッグでは第一人者のファンクス。老カイな攻めで、まず1勝。(写真下)マーテル組も好連係を見せた。



▲星井のいいスタートを切ったファンクスは、必す優勝してあげよう、と意気込んで後援にアピール。



▲最後はジंकの回転エビ固めをテリーが切り返し強引にフォール。

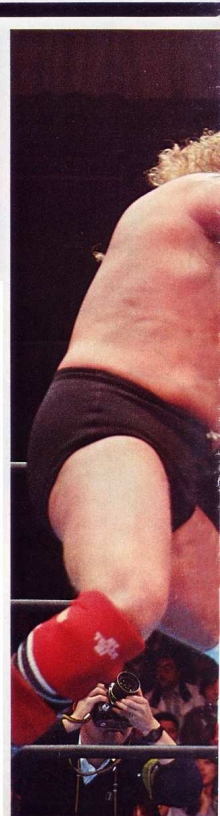
スロースターター！ここ数年、スタートはあまり調子が良くないというのが、鶴龍コンビのバタインだった。が、今大会は違った。難敵と思われるカーン&ゴディの日・米合体コンビ相手に、気迫十分のファイトをやったの、反則勝ちながら2点をもぎ取ったのである。

2月に奪われたインター・タッグを取り返せないまま年を越すことになった鶴龍が面目を保つには、この最強タッグを制することしかない。アメリカ遠征後、鶴龍はハワイで、天龍は日本に戻って道場でトレーニングしコンディションはベスト。もっともカーン&ゴディにしても「ベストなチーム」と自信満々の参加であり、パワーではハンセン&デビアスとい勝負なだけに試合は一進一退だった。

ここで鶴龍は正攻法から頭脳作戦に変更！ゴディに天龍が延髄斬り、鶴龍がリアアットをそれぞれ叩き込み、エキサイトさせ

るのに成功。カーツとなったら何をやるかわからないと言われるゴディは、これに乗って反則暴走し、鶴龍が手堅く2点をマークするのに成功したわけだ。先シリーズの不調ファイトでもはや時代は終わった」と酷評されたファンクスも、「俺たちは多くのファンを失った。今回はトレーニングを積んできただけに自信がある。面目を保つには優勝しかない！」となりふり構わずファイトでマーテル&ジंकのフレッシュ・コンビに挑みかかった。キャリアで数段上のファンクスは正攻法で来るマーテル&ジंकに対し巧くロープを使ったりと、ヒールっぽいファイト！最後はテリーがジंकの回転エビ固めをエビ固めに切り返してガッチリフォール。

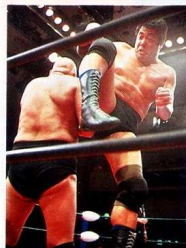
初参加のマーテル&ジंकは敗れたものの人気ではファンクスを上回ったのだから大したもの。ノラリクラリのファンクス相手に若者らしくケレン味の無い攻めを見せたことにファンクスは好感を持ったのだらう。ダブルドロップキック等の連係もスピーディーで、解説者として観戦していたG馬場も、「これはダークホースだな」と目を光らせていた。



〈開幕戦〉



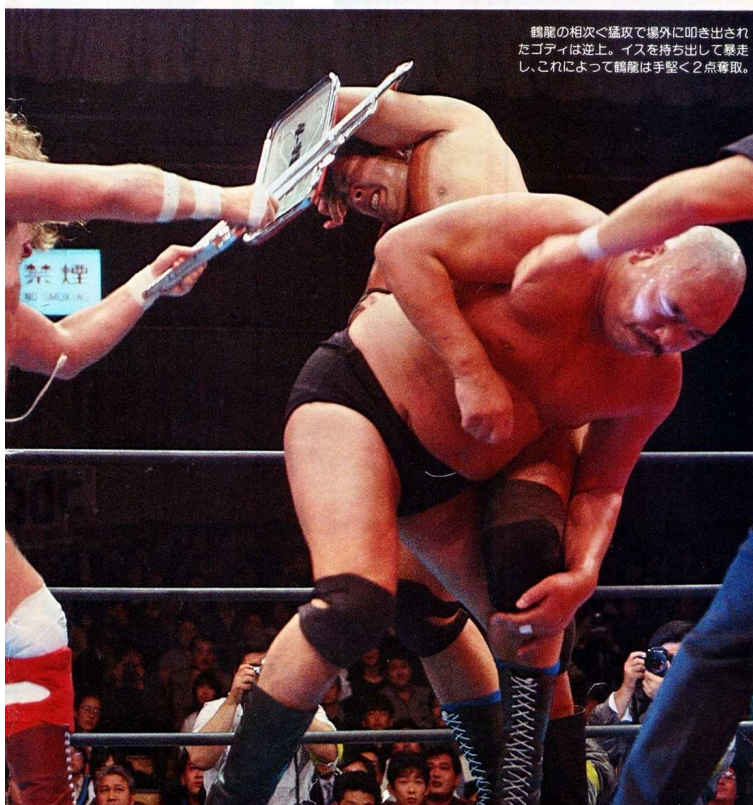
▲天龍も万全な体調で大会に参加。カーンに入場の延期新ヒット!



▲珍レスタートから快調な鶴田。気合いの入った一バット炸裂。



10月27日の新形におけるインター・タッグ戦。天龍の相次ぐ猛攻で場外に叩き出されたゴディは逆上。イスを持ち出して暴走し、これによって鶴田は手堅く2点奪取。

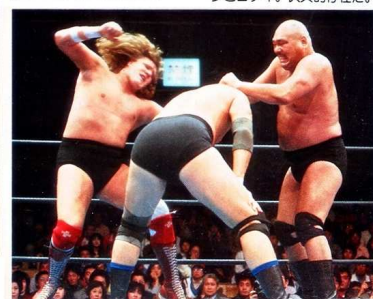


鶴田の相次ぐ猛攻で場外に叩き出されたゴディは逆上。イスを持ち出して暴走し、これによって鶴田は手堅く2点奪取。

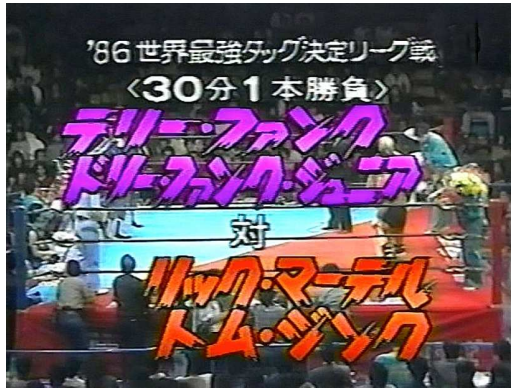
▽86世界最強タッグ決定リーグ戦公式戦30分1本勝負
◎J天龍源一郎 1-0 KT・ゴディ
鶴田組 (反則勝ち、11分26秒) ゴディ組

鶴龍コンビ手堅く白星発進 フアンクスも老獺な1勝!!

▼過去を忘れて手を組んだカーンとゴディ。伏兵的存在だ。



22 November, 1986, Korakuen Hall, Tokyo - TV

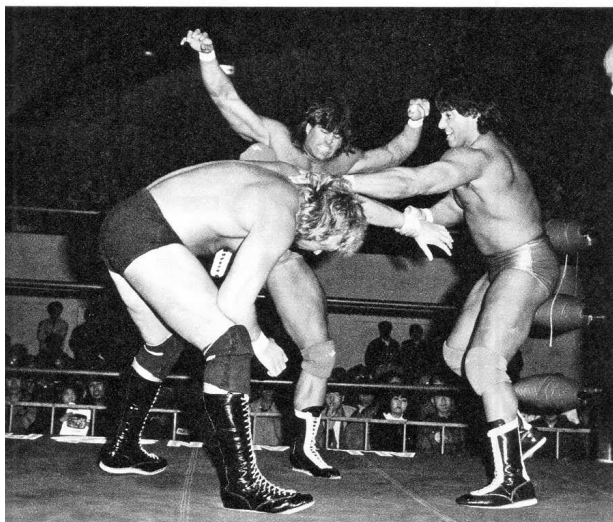


Tom Zenk and Rick Martel vs Terry and Dory Funk



23 November, 1985 - Korakuen Hall, Tokyo - Tom Zenk and Rick Martel vs Stan Hansen and Ted Dibiase

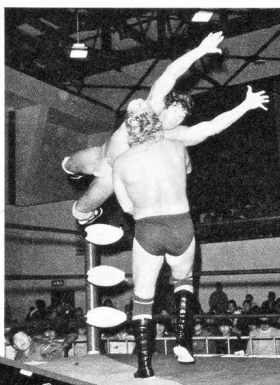
'86世界最強タッグ決定リーグ戦



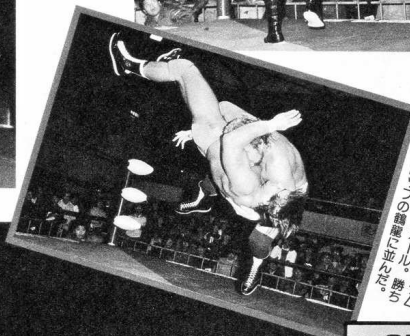
▼昨年、AWA世界王座を争った元と前王者同士がタッグながら激突した。

▲マーテルの得意のフライング・ホテイアタックの炸裂。
ル・ビュックはすでにマクニッヒのマーチ攻撃。くさね組はハッパで動き回っている。

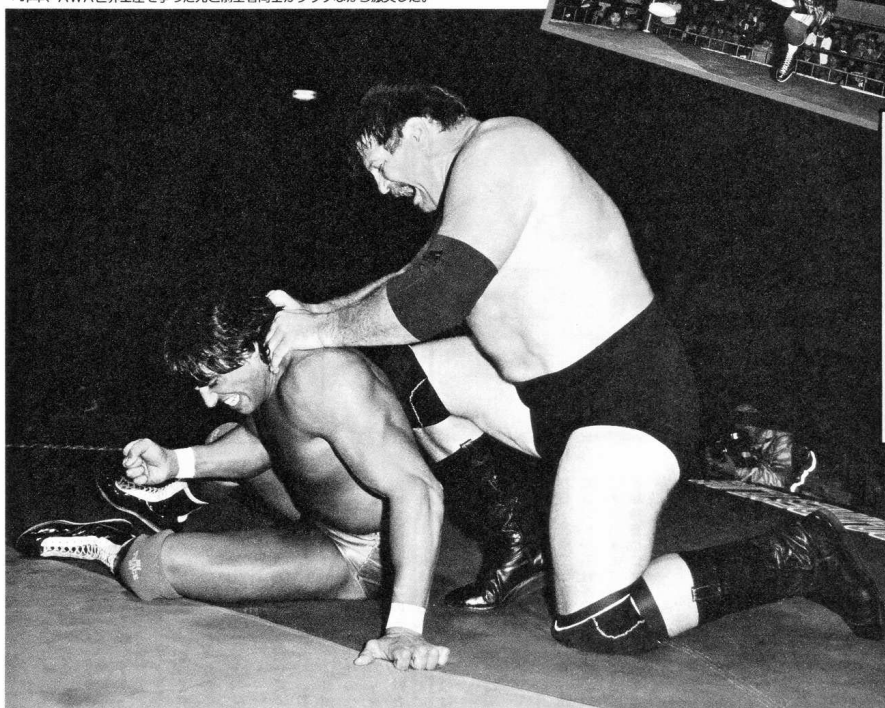
▲マーテルの得意のフライング・ホテイアタックの炸裂。



▲「馬場組」だけは負けられないと運まじい執念を燃やす日木村。鶴見は馬場を鉄柱攻撃。暴走して反則負けとなる。



▲「マッハ」な必殺「フー」で、デビアン・マッハ・マッハの活躍に並んだ。



●11月20日 三沢市総合体育館
マ'86世界最強タッグ決定リーグ戦公式戦30分1本勝負
ST・デビアン（10）RT・ジンク
ST・ハンセン（10）RT・マーテル
◎デビアンが10分29秒シンフ

したが、肝心なところで、怨敵・ハンセンを追いかけ過ぎた。ここでデビアンスの必殺パワースラムがジンクにズバリ決まってハンセン組は再出発の6点目。数字の上では鶴龍と並んで首位に。

鶴龍、マーテル組に快勝で首位独走

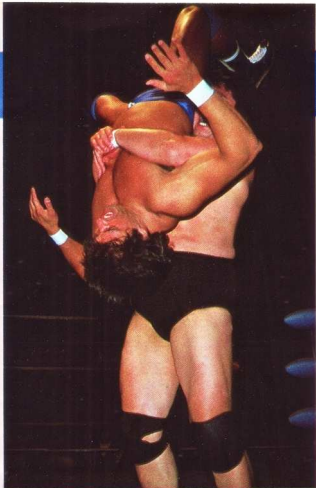
●11月26日 秋田県立体育館

▽86世界最強タック決定
リーグ戦公式戦30分1本勝負

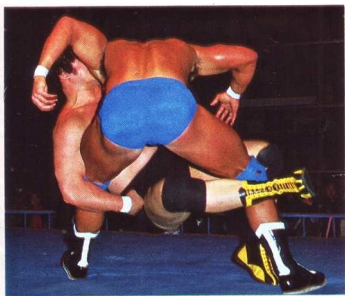
天龍源一郎 1-0 RTマール
鶴田 田 1-0 RTマール
◎天龍 (首固め、12分55秒) ジンク



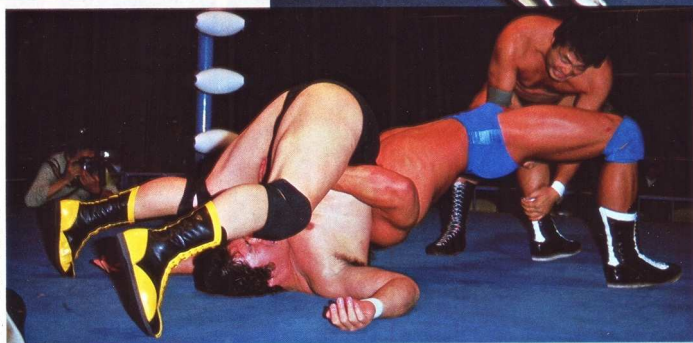
▲エルボースマッシュをジンクに叩き込む鶴田。ここは確実に星を重ねたいところ。自然と力が入る。



▲天龍も力みかきせにマーテルにパワー・ボムを決めた。



▲かなりの押しまくりだが最後は天龍が首固め2点を獲得。
▲新チーム・ジンのシャーマンが天龍に決まる。この大ピンチに鶴田が力をつけて救出した。



ハンセン、デビウス組がトップに並んだ直後のメインイベントでは鶴龍がマーテル、ジンク組と対戦。ここは何としてもトップに追いついておきたいところだ。

鶴龍はマーテル組の連係殺法に手を焼きながらもマイペースを保った。マーテル組も何とかして片目を開けたい。その意気込みが10分過ぎに猛ラッシュをかけた。マーテルがサイド・スープレックスからシュミット流バックブリーカー。そしてジンクが何とジャーマンを天龍に決めたのだ。

鶴田がカウント2で救出。その後も押され気味で試合が進んだが、天龍が一瞬の首固めでジンクを押さえてフォール勝ち。得点2を加え、トップタイに追いついた。

敗れたマーテル組は翌日の函館大会でやっと1勝目を挙げる事ができた。相手も既に2敗しているR木村、鶴見組だ。

乱戦に持ち込もうとする血盟軍に対し、マーテルとジンクは空中戦で対抗。ドロップキック、

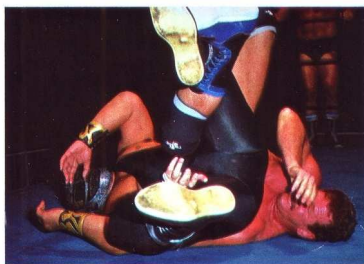
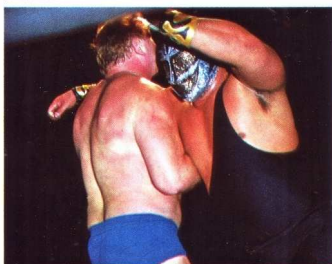
'86世界最強タッグ 決定リーグ戦

フアンクスもトップに並ぶ4点目！ 新風マーテル組、血盟軍退治で初V

●11月27日 函館市民体育館

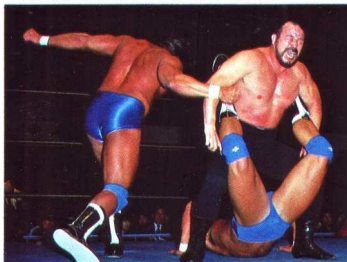
▽'86世界最強タッグ決定
リーグ戦公式戦30分1本勝負

DT・フアンクス 1-0 阿修羅・原
D.F.ジュニア
◎ドリー (反則勝ち、13分9秒) 原

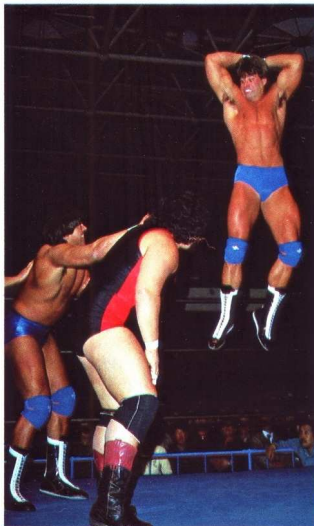


◀(写真上) ドリーがマシーンを
フォールに入ったところへ原が
イスを持って乱入し、反則負け。
(写真左) マシーンのラリアット
がドリーにカウンターで炸裂。
(写真右) テリーの回転式揺り
イス固めがマシーンに決まる。

▼木村の逆エビのピンチからマーテルを救出するジंक。



▼若さで連係プレーで魅せるマーテル、ジंक組。



RT・ジंक 1-0 R
◎マーテル (体固め、10分34秒) 鶴見
◎マーテル (体固め、10分34秒) 鶴見

▽'86世界最強タッグ決定
リーグ戦公式戦30分1本勝負

函館市民体育館

●11月27日

延髄斬りを繰り出し大暴れ。
木村も必死に応戦したが、マ
ーテルがフライング・ボディア
タックで鶴見をフォール。若さ
とスピードで初金星をもち取っ
た。その後のメインイベントで
は優勝候補の一角であるフアン
クスがS・S・マシーン、阿修

羅・原組と対戦するという好カ
ードが行なわれた。
一発を狙うマシーン組はダブ
ル・ラリアットやダイビング・
ヘッドバットを出してフアンク
スを再三追い込んだ。
しかし、キャリアで勝るフアン
クスの老カキさに原がイス攻
撃で乱入。反則勝ちでフアンク
スが4点目を獲得し、ゴディ組、
ハンセン組、鶴龍らとともに、
この時点でトップに横一直線に
並んだ。

December 2, 1986 Fukui (full house, 3,400)

Tom Zenk and Rick Martel def. Motoshi Okuma and Samson Fuyuki with a leap over top rope and splash by Martel on Okuma at 10:54.

December 3, 1986 Hyogo, Kobe (full house, 3,200)

Tom Zenk and Hiro Saito def. Norio Honaga and Kuniaki Kobayashi with a powerslam by Zenk on Honaga at 7:29. (Martel also wrestled a singles match, losing with a lariat from Chosu at 11:21 – Martel had refused to do the job *but it was Chosu's birthday!*)

December 4, 1986 Fukuoka (4,400)

Tom Zenk and Rick Martel def. Masanobu Fuchi and Toshiaki Kawada with a leap over top rope and splash by Martel on Fuchi at 10:52.

December 5, 1986 Kumamoto (3,100)

Tom Zenk and Rick Martel def. Terry Gordy and Killer Khan by DQ at 12.15.

December 6, 1986 Takamatsu (full house, 3,800) TV

Tom Zenk and Rick Martel def. Samson Fuyuki and Tiger Mask II (Mitsuharu Misawa) with a leap over top rope and splash by Martel on Fuyuki at 7:55.

December 7, 1986 Ehime (2,850)

Tom Zenk and Rick Martel def. Ashura Hara and Super Strong Machine by forfeit.

Tom Zenk and Rick Martel def. Haru Sonoda and Toshiaki Kawada with a leap over top rope and splash by Martel on Sonoda at 8.01.

December 8, 1986 Hiroshima

Riki Choshu and Yoshiaki Yatsu battled Rick Martel and Tom Zenk to a double count-out at 13:41.

December 9, 1986 Hamamatsu (full house, 3,100) TV

Tom Zenk over Shinichi Nakano with a powerslam at 7:56.

December 11, 1986 Ibaraki Budokan (2,700)

Tom Zenk and Rick Martel battled Giant Baba and Tiger Mask II (Mitsuharu Misawa) to a double count-out at 11:12.

December 12, 1986 Tokyo , Nippon Budokan (full house, 12,700) TV

Giant Baba and Hiroshi Wajima def. Tom Zenk and Rick Martel when Zenk was clotheslined by Wajima at 9:55.

Tag league results

Outstanding performance - Riki Chosu and Yoshiaki Yatsu

Technique - Dory and Terry Funk

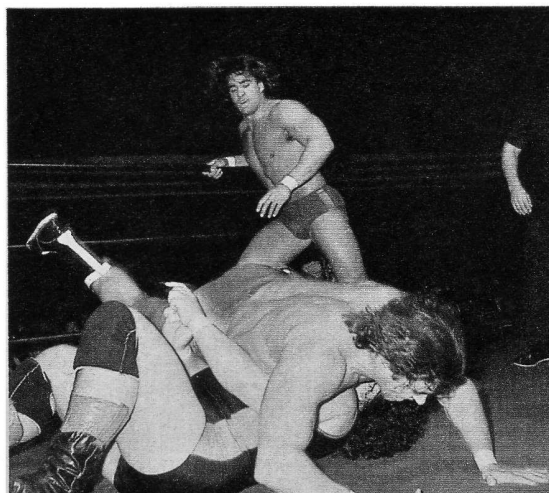
Fighting Spirit - Tom Zenk and Rick Martel



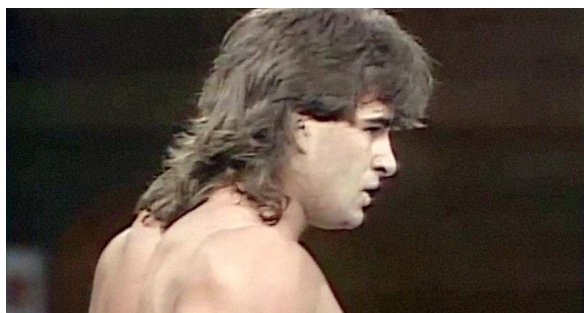
苦戦の末、マーテル組が辛勝

タッチの回数では、5対1の割合で木村、鶴見組がリード。だが、マーテル、ジंकのAWA代表チームは、必死に若さで踏ん張った。中でも日増しにペースを上げているジंकが、木村を相手にアキレス腱固めを披露するなどハッスル。初来日ながら伸び伸びとしたファイトで好感が持てる。フィニッシュの速攻も見事だった。ジंकのパワースラム、マーテルのフライング・ボディーアタックが、鶴見の息の根を完全に止めた。

★11月27日	北海道・函館市民体育館
▼公式リーグ戦	(30分1本勝負)
R・マーテル	(1)
T・ジंक	(0)
鶴見五郎	(0点)
マーテル	(2点)
体固め	10分34秒
鶴見	



27 November 1986 - Hakodate - Tom Zenk and Rick Martel vs Rusher Kimura and Goro Tsurumi



6 December, 1986 - Takamatsu TV - Tom Zenk and Rick Martel vs. Samson Fuyuki and Tiger Mask II (Mitsuharu Misawa)



In Takamatsu, I took a spinning kick on the temple from Fuyuki that left me KO'd on the mat. We finished the match but the kick left me tunnel visioned for about three weeks.



熱戦ハイライト

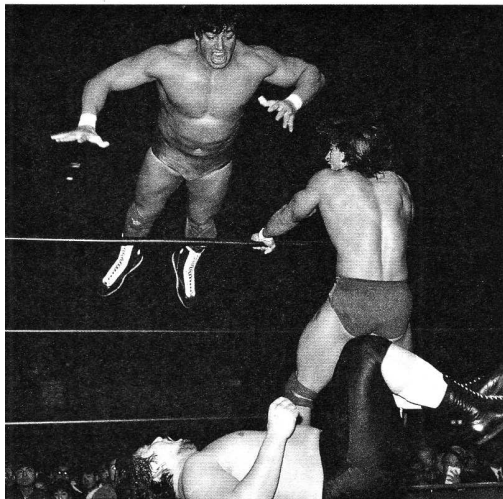
マーテルの「意地」に長州組は思わぬ足踏み

3日の長州とのシングル戦で、苦杯をなめたマーテル。内容は良かったが、負けは負け。元AWA王者のプライドに賭けても、連敗は許されない。長州にしてみれば、シングル戦と同様に正面からぶつかってき

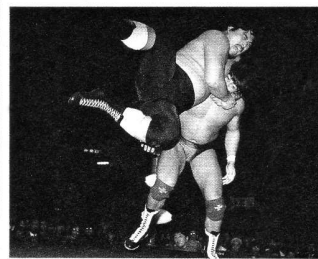
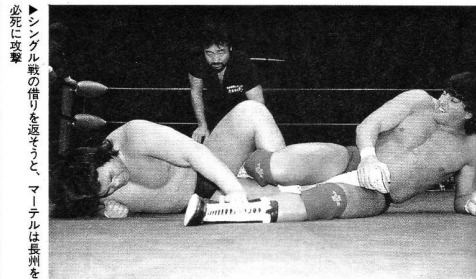
くれば、確実に勝機はあったのだが、マーテルにその気はなかったようだ。

試合は予想通りスピーディーな展開。長州組は、ダブルのバイルドライバー、ラリアット、マーテル組も

立体的な空中殺法と持ち味を發揮。だが、場外戦になって、マーテルの意地が出た。リングに戻ろうとする長州の足をつかみ“心中”作戦に出たのだ。そして長州組にとって、まさに非情のゴングがまもなく鳴った。



▲マーテルの「ロープ越し」ボディプレス。▼谷津は豪快なブルドッキング・ヘッドロックをマーテルに決めた



★12月8日 広島県立体育館
▼公式リーグ戦 (30分1本勝負)
長州力 (13分1秒、両軍)
谷津嘉章 (リングアウト)
T・シンク
6点

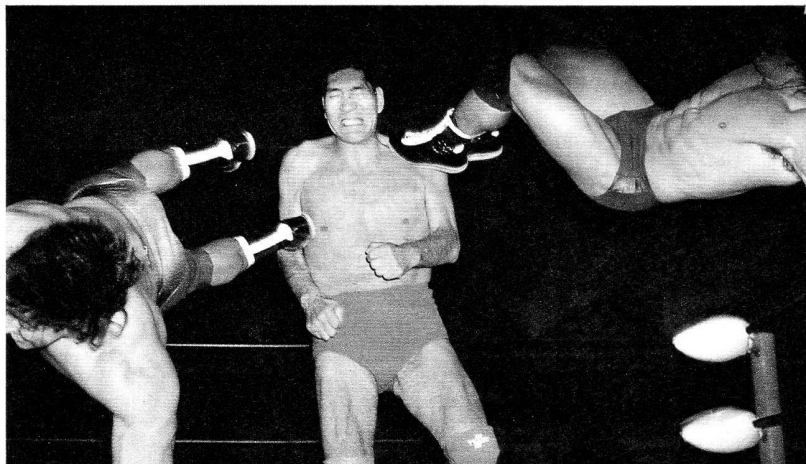
(Above) 8 December 1986 in Hiroshima - Tom Zenk and Rick Martel vs. Riki Choshu and Yoshiaki Yatsu .

(Below) 11 December, 1986 at Ibaraki, Budokan - Tom Zenk and Rick Martel vs. Giant Baba and Tiger Mask II

若武者コンビは6点でフィニッシュ

マーテル組は7戦を消化して、フォール勝ちひとつを含む3勝 (6点)。V争いまでは食い込めなかったものの、連日のファイト内容は賞賛に値する。特に、連係プレーは日ごとに冴えを見せ、

この日も馬場に対して、次々とダブルの立体攻撃を決めていった。一方の馬場は、武道館決戦を控えて手の内を探ることに終始。引き分けながら、マーテル組が断然に光った一戦だった。



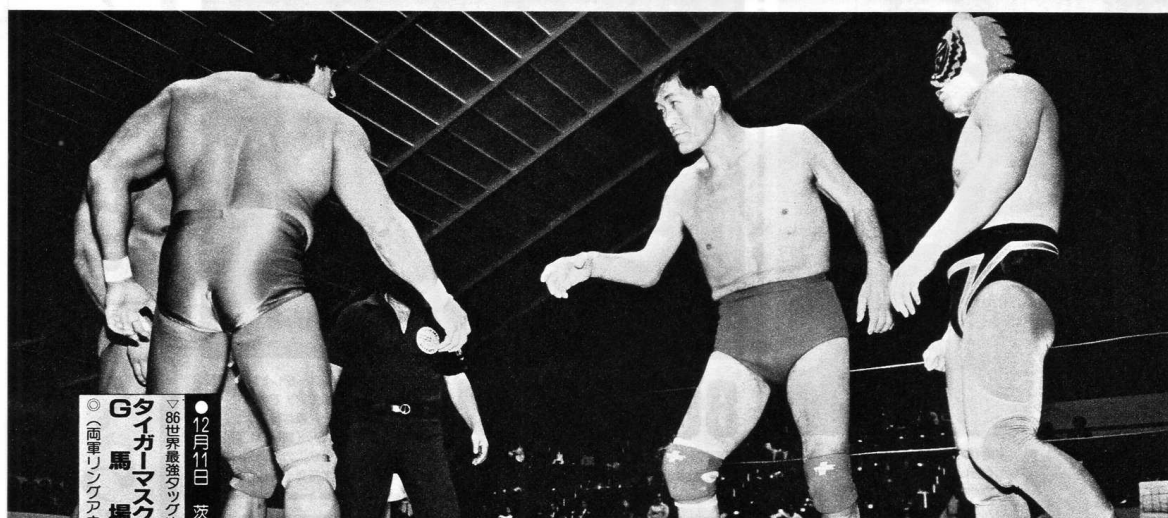
★12月11日 茨城・水戸市武道館
▼公式リーグ戦 (30分1本勝負)
G・馬場
タイガーマスク (11分12秒、両軍)
リングアウト
T・シンク
6点

▲各地で好ファイトを見せたマーテル組。再来日を望みたいタッグだ

△その他の公式戦試合結果
★12月9日 静岡・浜松市体育館
T・ゴードイ (不戦勝) S・S・マシ
K・カーン (不戦勝) 阿修羅・原
△6点
★12月11日 茨城・水戸市武道館
R・木村 (不戦勝) S・S・マシ
鶴見五郎 (不戦勝) 阿修羅・原
△4点

11 December, 1986 at Ibaraki, Budokan - Tom Zenk and Rick Martel vs. Giant Baba and Tiger Mask II

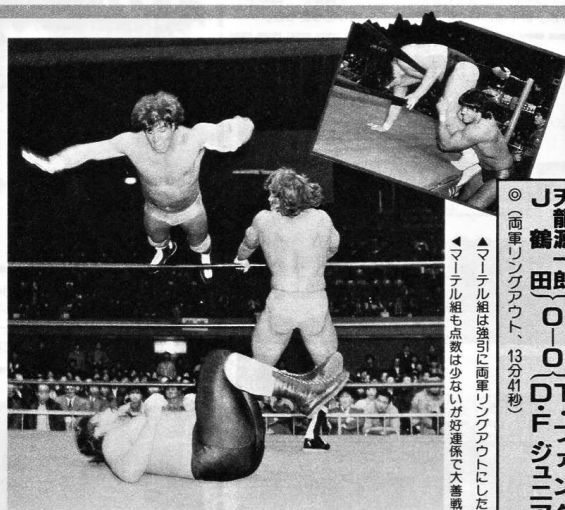
'86世界最強タッグ 決定リーグ戦



●12月11日 茨城県武道館
▽'86世界最強タッグ決定リーグ戦公式戦30分1本勝負
タイガーマスク（0-0）（RTシン・マール）
（両軍リングアウト、11分12秒）

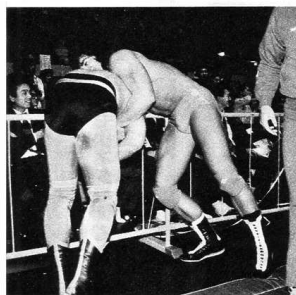
▲輪島とのタッグの前日だけに馬場もマーテル&ジंकに対して闘志を表わに…

▼常に全カファイトを見せるマーテル&ジंकのダブル・ドロップキックが炸裂。



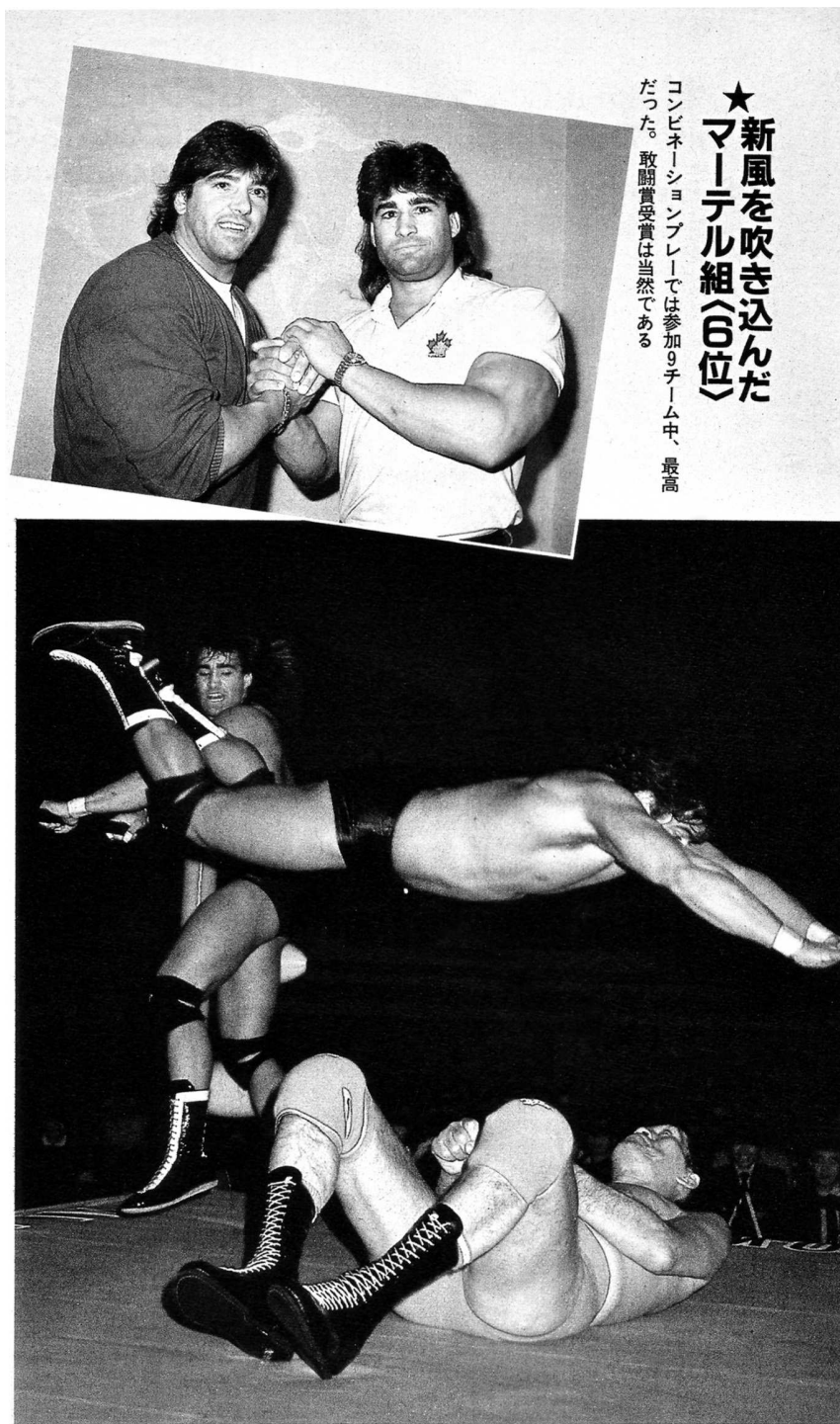
▽'86世界最強タッグ決定リーグ戦公式戦30分1本勝負
J.天龍源一郎（0-0）（D.F.ジュニア）
（両軍リングアウト、13分41秒）

▲マーテル組は強引に両軍リングアウトにした。
▲マーテル組も点数は少ないが好運で大喜戦。



▲また相手チームを強引に両軍リングアウトにしたマーテル組。

点、ファンクスは9点で最終戦を迎えることになった。
この日は長州&谷津も思わぬボカをやってしまった。12・6の高松大会で「あと全勝なら優勝だろ」と語っていたが、伏兵マーテル&ジंकに足を引っ張られてしまったのだ。
連係殺法が冴えわたる長州組…だがマーテル組もスピーディな連係を駆使して意外な善戦。最後は、どうせ点が取れないなら、相手も道連れにやる。とばかりにマーテル組が両軍リングアウトに持ち込んだ。
日本武道館を翌日に控えた12月11日、水戸大会は、すでに優勝の望みが消えた馬場組とマーテル組の対決。悪く言えば、消化試合。となるが、翌日は馬場&輪島vsマーテル&ジंक：馬場にしてみれば、マーテルとジंकの弱点を探つてやろう。という思惑があり、マーテル組にしてみれば、明日の一番を前にして負けは許されない。の気持ちで働く。こうした思いが絡んで両軍リングアウト。両チーム共に6点で大会を終了した。



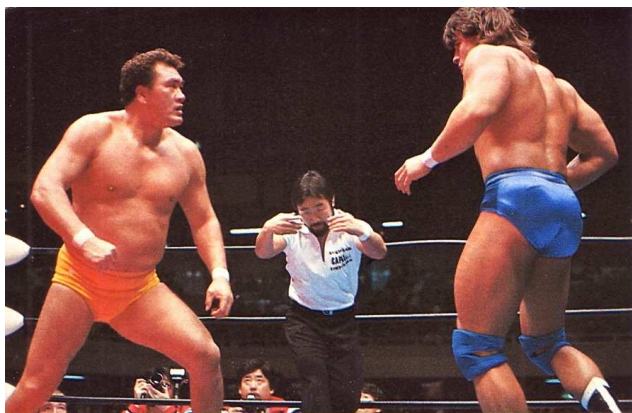
★新風を吹き込んだ
マーテル組へ6位
コンビネーションプレーでは参加9チーム中、最高
だった。敢闘賞受賞は当然である

Martel sling-shot splash on Giant Baba



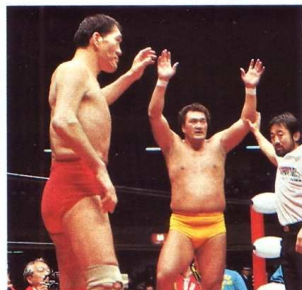
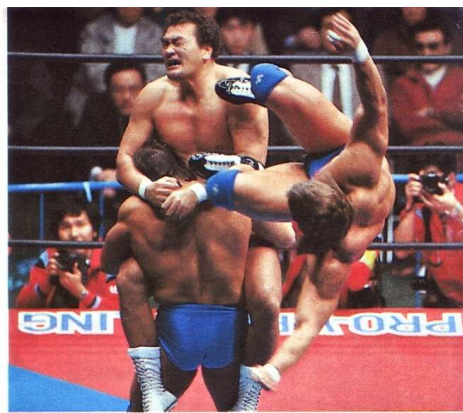
12 December, 1986, Budokan Hall, Tokyo
Tom Zenk and Rick Martel vs. Giant Baba and Hiroshi Wajima

"At the end of the tour we did the obligatory, respectful job to Baba and Wajima. I hated wrestling Baba. I told Martel, "You gotta be kidding. This guy is pathetic." He.... had to hold the ropes just to stand up. But Baba was the boss. He had a huge ego. He wanted to be a big shot. That's life. Big shot Hogan, big shot Vince McMahon, big shot Eric Bischoff, big shot Baba."



▼ロープに飛ばして出した水平チョップは気迫のたまものか...
ジंकがマットにぶっ倒れた

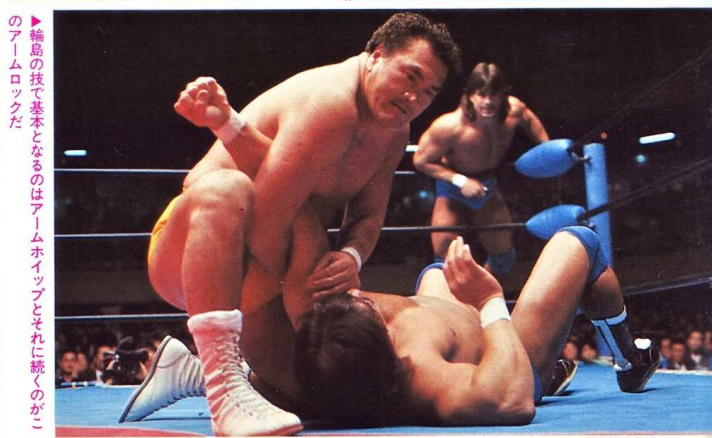
▶ジंकが輪島を相手に素晴らしい技を出した。こんなドロップキックは見たことがない!
◀ケンカ・ファイトでも一歩もひかない輪島。ジंकを相手にこのあと張り手をぶっ放した



◀東都デビュー戦を飾った輪島は師匠、馬場の祝福を受けた。馬場も一安心だろう



◀出た、究極のプロレス・コンビ、馬場と輪島のタッグ



▶輪島の技で基本となるのはアームホイップとそれに続くのがこのアームロックだ

▼タッグマッチ(30分1本勝負)
輪島・馬場(1-0) R・マーテル
輪島大士(1-0) T・ジंक
輪島(体固め) ジंक

だが、あけてびっくりとはこのことだ。終わってみれば、これ以上の相手はいなかったのだから、馬場はだてにプロレスを26年やっていなかった。
輪島は馬場の好フォロワーで見事な東都デビューを飾った。馬場はアシスト王だ。だが、最後に一つだけ言いたい。この日、俺はリングにSFを見た。(山本)

を禁じ得ない。
アイトがそこだけ「別世界」!!
っているように輪島にも独自の世界があった。
お客はいい。その別世界を楽しめばすむわけだが、他のレスラーにとってはやっかいだろう。
このままだと全日本プロレスのリングは、みんな輪島と馬場に食われてしまう。
別世界というより「祭り」だな。
「輪島祭り」と「馬場祭り」が手を組んだら、それこそ世界最強だ。祭りをみるつもりで観戦した。残念だけど、ほかのレスラーは祭りにならないもんな。
それにしても馬場のセンスはすば抜けている。最もスイングしないうと思われたリック・マーテルとトム・ジंकをぶつけてきた。
若さとイキの良さ。スピードあり、テクニクありでこれほど輪島、馬場組と好対照を示したレスラーはいなかった。
だが、あけてびっくりとはこのことだ。終わってみれば、これ以上の相手はいなかったのだから、馬場はだてにプロレスを26年やっていなかった。



あっ、といひてきたのがこの輪島のバックドロップ。高い位置から急角度で決まった

まるで別世界にはいったようだった。変に新鮮に映るのだ。この感じは一体、なんなのだ。

輪島が入場してきた。軽く足踏みしながら気分良さそうにリングへと進んだ。変にムードがある。

輪島のうしろには馬場がいた。このコンビ：なんと表現したらいいんだ。まったく、馬場は大変なことをしてしまった。

「どうだ、わかったか？ これもプロレスなんだ」

馬場の高笑いがかえってきた。格闘技ブームとシューティング全盛に馬場が復讐をはかった。

馬場プロレスにとつて、輪島は偉大なる切り札である。輪島のファイトは無難だった。いや、むしろ評判が良かった。

「あのバックドロップはすごかった」

「一生懸命、やっているじゃないか」

「変な感じだけど、ゴールデン・アームボンバーって面白いな」

なんてことだ。これじゃ、まるで輪島党のオンパレードだ。たしかに変に面白かった。

それは認める。しかし、完全に認めると馬場の思うつぼだ。ちょっと見方をかえてみよう。そうだ。輪島、馬場コンビは「究極のプロレス」なんだ。

普通のプロレスじゃない。究極なんだ。この意味、わかるかな。うん、これで気分が楽になった。究極のプロレスだから、誰も反論するわけにいかない。馬場のフ



1986
世界
最強
タッグ
12月12日=東京
日本武道館
最終戦

ついに田中シンマ・スズキのIIコールドマン・ホーンズだ

ファンタスティックな
祭りになった
馬場、輪島は
究極のプロレスが...



▲試合前に控室を訪れた具志堅用高(左)とガッツ石松は「ケガをしないように」と激励。



▲実父・孝太郎氏も七尾から駆けつけた。

▼読売ジャイアンツの江川卓投手からは大きな花輪が届いた。



▲「凄い体になったね」と金田正一氏。



▲俳優の竹脇無我



▲神津善行・カンナ親子も熱心に試合を観戦。

◀イーテス・ハンソン

終了まで報道陣シャットアウト。それでもガッツ石松、具志堅用高ら友人が激励に駆けつけ、控室前は賑やかそのものだった。いよいよ出陣：全日本プロレスのテーマが流れ、12700人の観衆はワジマ・コール。その中を黒を基調とし、襟が燃えるようなオレンジ、七尾の荒波の上に黄金の龍が天に向かう絵が背中に鮮やかに描かれたニュー・ガウンで、主役・輪島が入場。両手を上げ声援に応える姿は新人とは思えぬ堂々たる貫録だ。

各界著名人が激励観戦

▼やはり雄胆の精力は鋭く立つた無二のファイター。強襲の攻撃に仕掛ける館内はトクと沸いた。



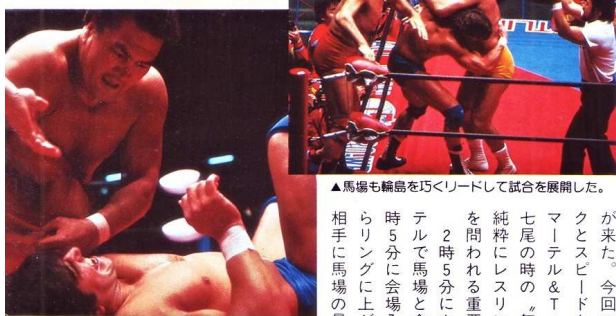
▶新しいガウンで東京のファンの前に初めて登場した注目男・輪島。

▶元AWA世界王者マーテル相手にも堂々の試合ぶり。度胸は満点！

アンツの江川卓の花輪が飾られた控室は全試合



出た！これガワジマ・スペシャルこそ段式首折り。車都デビューのフナエにふさわしい豪快な荒技だ。



▲馬場も輪島を巧くリードして試合を展開した。

遂に輪島の東都デビューの日が来た。今回の相手はテクニクとスピードを身上とするR・マーテル&T・ジंक。輪島は七尾の時の『気迫』だけでなく純粋にレスリング・テクニクを問われる重要な一戦だ。

2時5分にキャピトル東急ホテルで馬場と合流した輪島は3時5分に会場入り、3時36分からリングに上がり、ハル園田を相手に馬場の最終チェックを受けた。相撲タックル、ボディスラム、シュミット流バックブリーカー……と次々に技を仕掛ける輪島。練習は5時近くまで続けられた。

入口にジャイ

1万2千7百人が熱狂のワジマ・コール 輪島大士100点満点の鮮烈東都デビュー！！

完全追跡！！

輪島大士

12・12

東都デビュー



▲開場前の日本武道館のリングで輪島は馬場に最終の指導を受けた。



▲園田に『黄金の左』ことゴールデン・アーム・ボンバーを仕掛ける。



▲特に入念に練習していたのは相撲タックル。スピードもアップした。

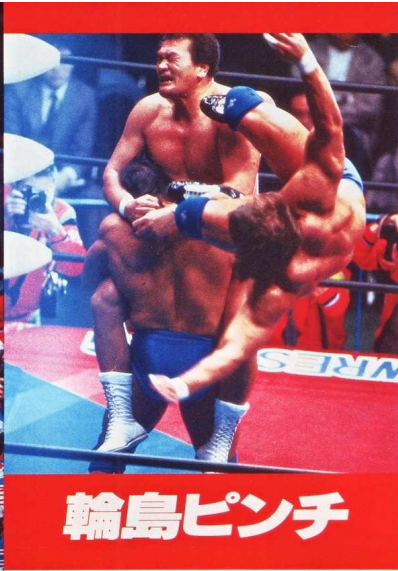


▲実際では公開しなかったが完成しているシュミット式首折り。

3時36分……最終調整へ

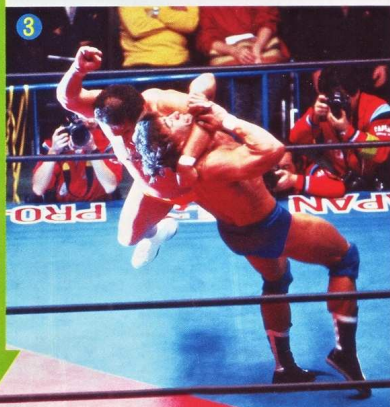
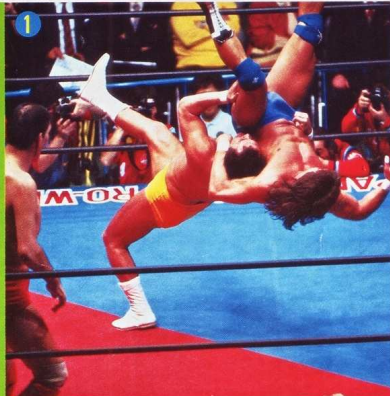


▲マーテルの空中爆弾にはカウント2まで取られた。



▲輪島の最初の危機は、この合体ドロップキック。

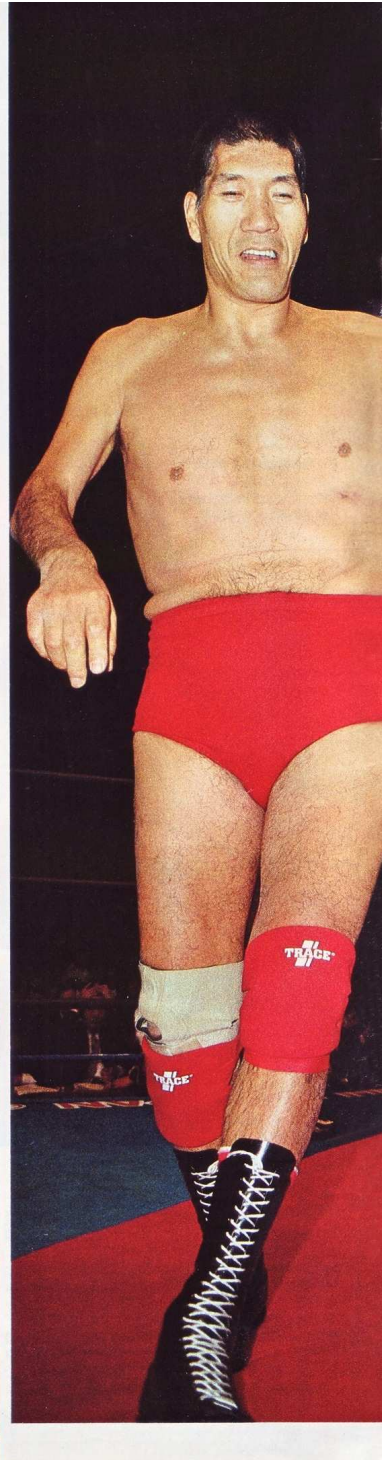
- 1 実戦では初公開のバックドロップ。凄じ角度と落差でジグをキャンパスに落とした。
- 2 そしてフィッシュの前に使う得意の相撲タツフル。スピードと威力は以前より数段アップ。
- 3 フィニッシュは「ワジマ・スペシャル」こと2段首折り。豪快無比なオリジナル殺法だ。



▶今日の輪島は10点満点。合格だ。と試合後の馬場。



▶試合後、車に乗り込む輪島にファンガッツと集まる。





▼タッグマッチ30分1本勝負
輪島大士
 G馬場 1-0 RT:マール
 輪島(体固め、9分55秒) ジンク

完全追跡!!

輪島大士

12・12

東都デビュー

最後の決め手は気迫とパワー 豪快大技3連発で堂々の勝利

ワジマ・コイルの中、先発は輪島とマール。マールは軽やかなフットワークで攪乱するが、輪島はアームホイップからアームロックで先手を取り、マールのタックルをかわすなど冷静なもの。ファイアーマンズ・キャリアを繰り出せば、館内は「オーツ」というどよめき。だがマールも元AWA王者だけに、そうそうやられてはいない。ベアハッグとドロップキ

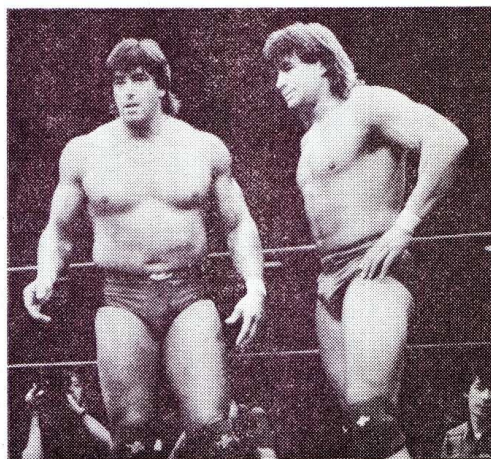
ックの連係からベースは一転してマール組へ。「あのスピードなベースと早い技にはまったら危険だ」という馬場の心配が適中した。マールのシュミット式背骨折り、ボディブレスに攪乱される輪島。やはり最後にモノを言ったのは気迫と喧嘩根性だった。チョコマカ動くマールとシンクにエキサイトした輪島はシンクのパンチを張り手でかわし

水平チョップ、最後は相撲タックル、初公開のバックドロップそしてフィニッシュは「ワジマ・スペシャル」の2段首折り。ここで再び輪島コイル：中盤はやや苦戦したものの東京のファンも「レスラー輪島」を認めたのである。「注文することは一杯あるが、今日は100点満点。パワーも技も出ている。今後はハンセンともシングルで戦うという発言がで

きるようになってほしい」と満足気に馬場が語れば、七尾から駆けつけた父・孝太郎氏は「前は50点だったけど、今度は80点。よくやったと思う」と嬉し気にコメント。「自分では70点かな。1年でも2年でも練習。それだけです」合格をもらった当の輪島本人は勝利の喜びを噛みしめながらも自らに厳しいコメントを出した。さあ、次は正月シリーズだ!

◆堂々たる勝利を飾った輪島は馬場と共に1万2千7百人の声援に響える。

◀(写真上) またまた新日プロとの契約を一時的に破棄した日・プロディ(写真下) リック・マーテル、トム・ジंक組



人もいるけど、オレも今回のマッチメイクに対する不満と不安が、その最大の理由だと思ふね。

C まあ、これで今度こそ間違いなくプロディは日本のマッソ界から永久追放だね。
A これでもう一度、接触するような事にでもなったら、それこそファンが承知しないし、その時はファンが新日プロを見離すよ。

B 今の大事な時期にまたまたこんな不祥事を引き起こした新日プロは、つくづくツキに見離された感じですね。
C これは単に涉外担当の責任だけではなく、新日プロ全体のモラルの問題だからね。

会社レベルでこうした問題に対する処置を真剣に検討すべきだね。

◆求められる若返り!◆

B プロディの問題はいくら話していてもキリが無いので、そろそろ別の話題に変えませんか?

A 全日プロの『88世界最強タッグ決定リーグ戦』の話題でもいっか。オレは開幕戦(11月22日、東京・後楽園ホール)を見て、つくづく新旧交代を痛感したね。特にリック・マーテル、トム・ジंक組がファンクスをしのぐ人気をファンから得ていたのにはビックリさせられたね。

B リック・マーテルは良かったですね。久しぶりにフレッシュ・ムードいっぱいニュー・ヒーローが誕生しそうな予感がする。

C AWAの世界チャンピオンとして来日していた時は、何となくチャンピオンとしての『型』にはまっていたけど、無冠になったことで本来の良さが出てきた感じがする。このまま伸びてくると楽しみな存在だね。

B 開幕前の下馬評では完全な『白星供給係』と思われていたけど、この調子だとダイクホースになってくるね。
A オレは近い将来、マーテル、ジंक組が第二のファンクスになりそうな気がしてき

たね。開幕前はノーマークだっただけに、このシリーズでの成果に注目したい。

C 気の毒だけど、最強タッグの顔イとまで言われたファンクスも、もはや過去のの人になってしまったね。

B 9年前(昭和52年)のオール・タッグ戦の後楽園ホールにおける開幕戦では、あれだけファンを熱狂させたテリーが若いマーテル、ジंक組にその人気を奪われてしまった姿は哀れでもあったね。
A でも、テリー自身がそうした時代の大きな流れに全く気が付いていないことが、より悲劇だね。

C そういう意味ではハンセン、デビアス組、鶴龍コンビあたりにも、そろそろフレッシュ・ムードが感じられなくなってきたね。そろそろ最強タッグにも若返りが求められる時機じゃないかな。

B 新日プロの武藤敬司と全日プロのタイガーマスクをドッキングさせたようなフレッシュなタッグチームの出現が待たれますね。

A マーテル、ジंक組を見て、それを痛感させられた。日本のマッソ界にもマイク・タイソンのような強烈な個性を持ったニュー・スターが出てきて欲しいところだね。

今週の三者一言 これだけは言わせろ

A プロディの契約破棄問題で、またまた坂口征二が尻拭いをさせられた。涉外担当重役としての坂口の立場も分かるが、これは新日プロ全体の責任である。前田・坂口というカードが、あたかもプロディ問題の責任を取ったような形で実現したのは何とも遺憾である。

B 馬場・輪島の「不仲説」が一般週刊誌を派手に賑わせている。一般マスコミがそうしたスキャンダラスな部分に関心を持つことは分かるが、許せないのは、某プロレス専門誌記者として隠れてコメントを出している連中だ。男なら実名で堂々とコメントしてみろ!

C プロディの一方的な来日中止で予定されていた11・24札幌の前田・プロディ戦が前田・坂口戦に変更になった。だが、ここでやらなければならないカードは残念ながら前田・坂口戦ではないはずだ。なぜ、猪木が責任上、前田とやらなかったのか理解に苦しむ。

★連載 週ゴン覆面スクランブル時評 **三者三様 第47回**

今週のテーマ **プロデイ契約破棄騒動と最強タッグ開幕を見て**

超獣より新日の体質にも問題あり 今度こそ断固永久追放すべし

C この時評には全く関係の無い話題だけど、アメリカ時間の22日夜、ラスベガスで行なわれたマイク・タイソンとトレバー・パービックのWBC世界ヘビー級タイトルマッチは凄かったね。久しぶりにヘビー級ボクシングの迫力を満喫したよ。

A タイソンが世界チャンピオンになったことで、このところ低迷していたボクシング人気も上がってきそうだね。来年はWBC、WBA、IBFの各チャンピオン同士が激突する注目の統一戦も企画されているようだし。

B オレは20歳のタイソンが33歳のパービックを豪快にKOする場面を見ていて、もし今、猪木と前田が戦ったら、

あれと全く同じようなシーンが見られそうな気がしてゾッとしたね。もちろん、前田がタイソンだね。

A さて、そこで肝心のプロレス界の話題だけど、またまたトラブル・メーカーのプロデイがやってくれたね。

B “まさか”と思っていただけに正直、ショックだったし、無性に腹が立つね。

C これは単にプロデイ個人の“我がまま”ということだけでは、絶対に片付けられない問題だよ。

A 当然、オレは一度ならず二度までも、こうした不祥事を引き起こした新日本プロレスの外人招聘に対する体質にも問題があると思う。少なくともトラブル・メーカーとい

われるプロデイでも、全日本プロレスと契約していた6年間は、こうしたボイコット事件は一度も起こしていないからね。それが新日プロに移った途端に1年に2度も、こうした不祥事を起こしたことは新日プロ・サイドにも何らかの手落ちがあったのだと思う。

C 坂口は「こちらサイドには何の手落ちも無いのに」と、しきりに弁明していたけど、そもそも一度“永久追放”したプロデイを呼ばなくてはならない新日プロの外人招聘ルールの不祥事とも言えるね。

B ただ、今回のプロデイとの再契約問題に関しては、我われマスコミ関係者も、やや

冷静さを欠いていたことは事実だね。もう少し厳しい視点での批判があっても良かったと思う。オレにしても8月の段階（ハワイでの猪木とプロデイの接戦）では諸手を上げてプロデイ復帰に賛成していたけど、あの時点でミスター・Aが言っていたように、キツチリとけじめだけは着けておくべきだったと思うね。

❖ **新日プロ全体の責任**
C でも、9月の来日の時には何のトラブルも起こさなかったプロデイが今回、なぜ突如として一方的に新日プロとの契約を破棄してきたのかね？ どうもその理由が今一つハッキリしないね。

B プロデイには元々、新日

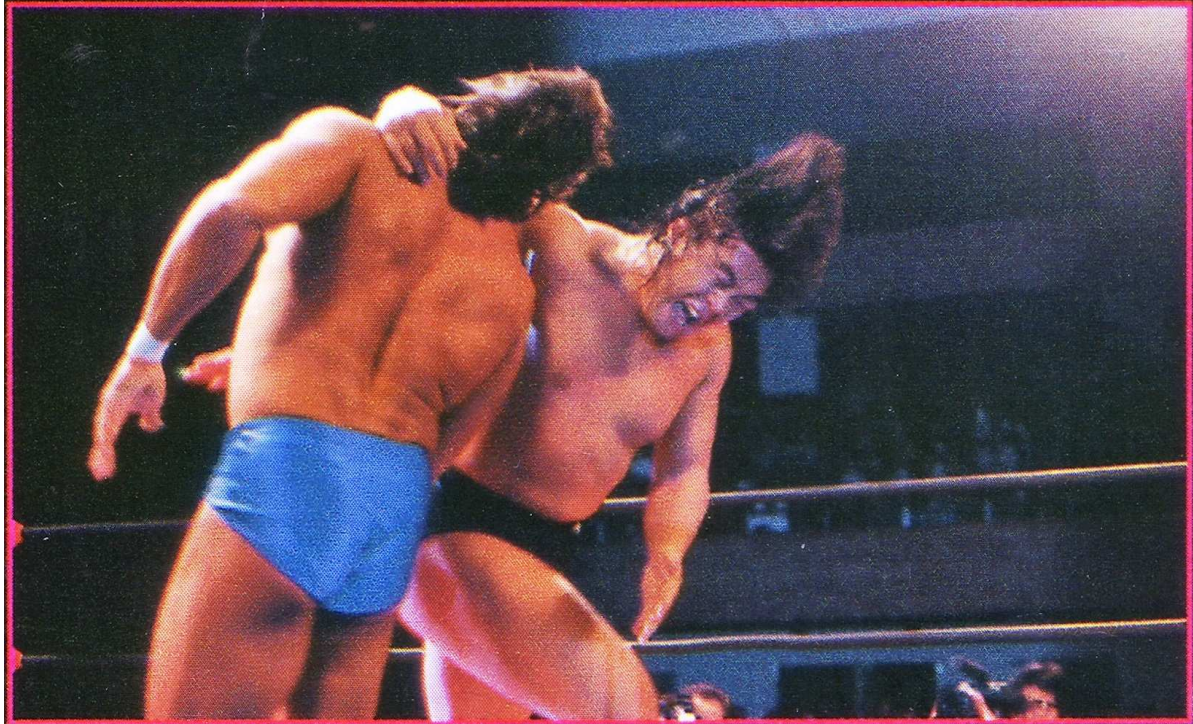
プロとのビジネスを改めて修復する気は無かったんじゃないかな。8月に和解するのを見せ、9月に来日したのは凍結されていた昨年暮れのフアイト・マネーを受け取るための手段だったのかもね。

C いや、オレはズバリ、今回のシリーズのマッチメーカーに対する不満だと思うね。ジャパン・カップという、いかにも日本人レスラーを中心にしたシリーズの名称：そして、予定されていた前田日明、アンドレ・ザ・ジャイアントとのシングル2連戦。これらがプロデイのナードバスな神経を刺激し、ハッキリ言えばビビらせたのだと思う。

A プロデイ支持派のファンたちは真つ向から否定してくるだろうが、前田戦、アンドレ戦を恐れたと見られても仕方無いところだね。どんな理由があるにしても、約束を破って来日をボイコットしたのはプロデイ本人だからね。

C 今までプロデイは「シュートに強い」と、言われ続け てきたけど、今度の一件で、その神話にもちよつとかげりが見えた感じだね。

B プロデイのアメリカにおける主戦場のテキサス州ダラスのWCWAがニューヨークのWWFと手を結んだことで「WWFの圧力」説を唱える

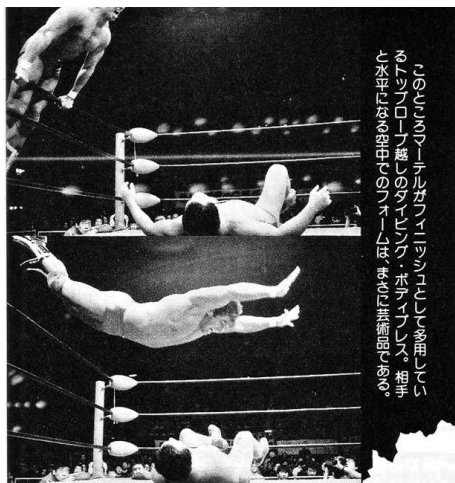


Baba's Revenge

"Rick held out for a personal payment of \$6,000 a week and \$2,500 'for the kid" (me). Baba didn't enjoy being held up by wrestlers. He paid Rick his \$6,000 and took his revenge later.

For most of the series, Rick held the rope, took the hot tag, cleaned house and made the pin. Then, towards the end of the tour, in the final week, he was asked to do a job to Chosu in Kobe, "because it was Chosu's birthday." That's what they told him!! I remember Rick being just a little pissy about it. Don't forget Rick had been AWA champion. The finish was a strong clothesline, so poor Rick got beat like a job guy. Then again, you ask for more money than the office wants to pay, and I guess you've gotta pay the price."

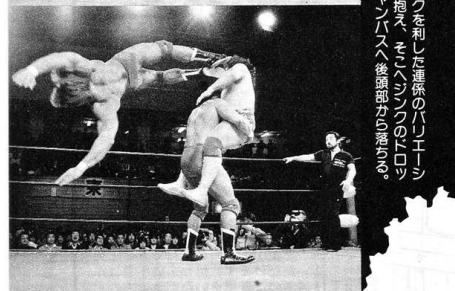




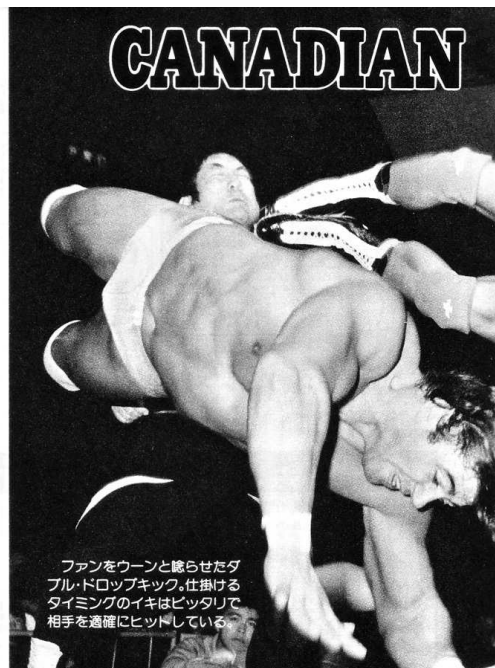
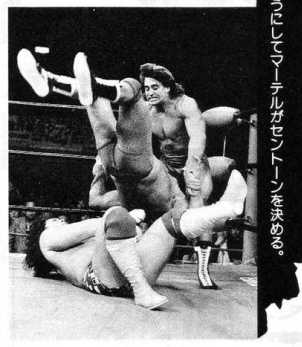
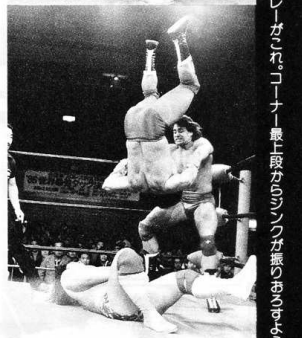
このころマーテルがフィニッシュとして多用しているトップロープからのダイビング・ボタキック。相手と水平になる空中でのフォームは、まさに芸術品である。



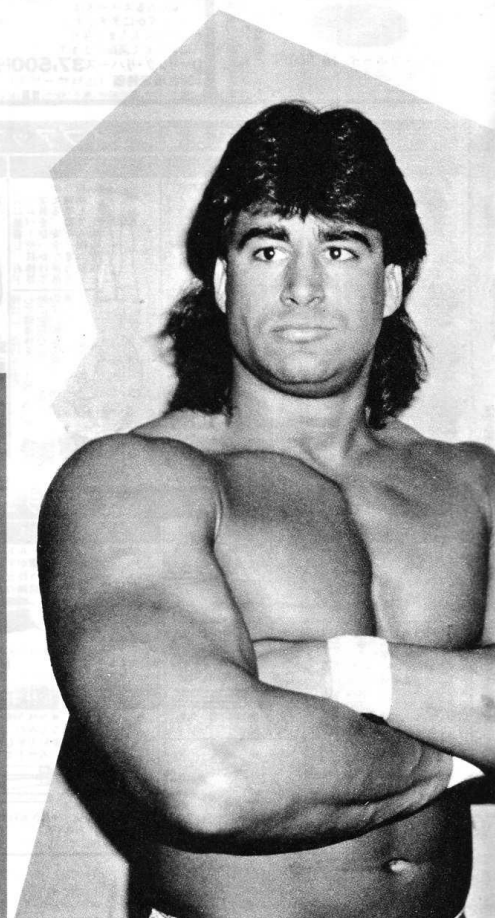
これもダイナミックなドロップキックを利用した連発のハリエーション。マーテルが相手をヘアハックに抱え、そこからドロップキックがヒット。相手はそのままキャンバへ後頭部から落ちた。



カナディアン・コンプレッションのオリジナル連発プレーがこれ。コーナー最上段からシンクが振りおちるようにしてマーテルがセントーンを決める。



ファンをウーンと唸らせたダブルドロップキック。仕掛けるタイミングのイキはピッタリで相手を適確にヒッドしている。



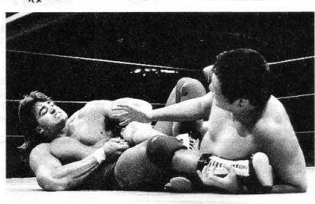
▲派手な飛び降りだけでなく、シャーマン・スプレッドもマスター。
▼アメリカでもキック殺法は注目を集めているが、延髄斬りも鮮やかだ。

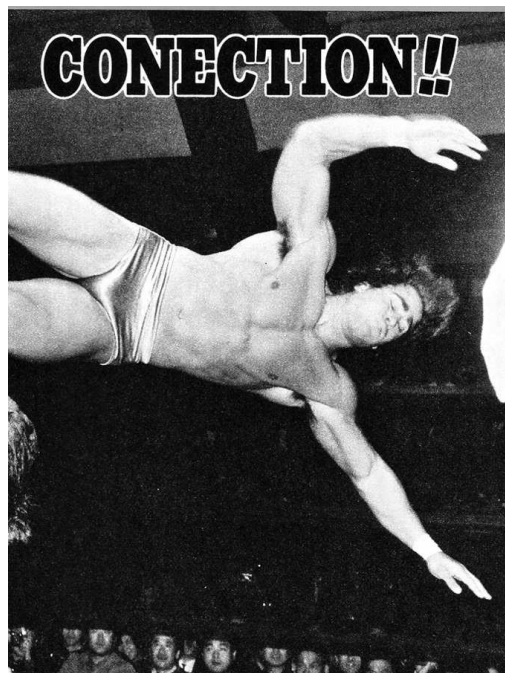


有望株シンク!

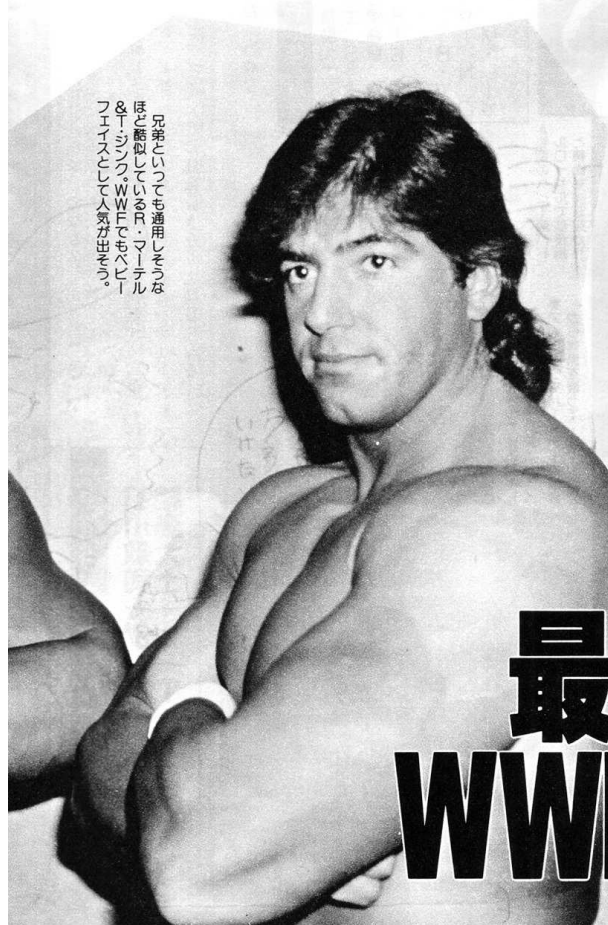


▲AWA時代にマサ斎藤との対戦から盗み取ったと思われるサソリ固め。
▼何とアメリカでは使われるはずがないアキレス腱固めまで得意だった。





フィニッシュとして好んで使っていたのがこのパターン。ジンクがロープの反動をつけマーテルがプレスする。



兄弟といっても通用しそうなほど酷似しているR・マーテル&T・ジンク。WWFでもヘビーフェイスとして人気が出そう。

『86世界最強タッグ決定リーグ戦』では6点止まりでBクラスに終わったが、ケレン味のないクリーンなフアイト、スピード、ビルドアップされた身体、とフレスシュ感一杯でファンを魅了したのが元AWA認定世界ヘビー級王者リック・マーテルとトム・ジンクの『ハンサム・フレッシュ・コンビ』ことカナディアン・コネクションである。

11月22日の開幕戦でフアンクス相手に好フアイトを披露、フアンクス以上の声援を集めて、ジャイアント馬場をして、「将来はフアンクス級のタッグチームに成長する逸材」といわせたこのコンビはシリーズ開幕前は「白星配給係になるのでは」の声も多かっただけに思わぬ拾い物だった。

その活躍で無視できないのはトム・ジンクが予想以上の選手だったこと。アキレス腱固め、延髄斬り、サソリ固めと日本好みの技を駆使し、大技としてはジャーマン・スープレックス・ホールドまで放ち「見せかけ」だけではないフアイトを披露したのだ。

大いに株を上げたこの2人は1987年1月1日からWWFに入ることが決定している。

「日本に来る前に、すでにテレビマッチを2試合やってきた。必ず成功するさ」とのマーテル。ルックスが良く、実力もハイレベルなマーテル&ジンクは「日本帰りは出世する」を地でいきそうだ。

最強タッグから WWFへの飛翔!!